

2016 10/11

No.2028

毎月第2・第4火曜日発行

# 政経 かながわ

一般社団法人  
— 神奈川政経懇話会 —



横浜DeNAの今季のレギュラーシーズン最終戦が9月29日、横浜スタジアムで行われ、三浦大輔投手が最後の登板。試合後の引退セレモニーでファンの声援に包まれながら、チームメートに胴上げされた。



視点・点描	3
変わるお墓事情 あれこれ	
講演録	4
脳が若返る快眠の技術 ～ぐっすり眠れる人は認知症にならない 快眠セラピスト・睡眠環境プランナー 三橋 美穂	
環境	8
避けられない異常気象への対応 地域レベルの予測技術向上を	
国際	10
大国に翻弄されるシリア 停戦崩壊、終わりになき内戦	
政治	12
放送法改正へ検討を加速 進むデジタル化で、自民佐藤氏	
企業最前線	14
駅に宅配ロッカー続々 再配達を減らす狙い	
くらし2016	16
T細胞白血病対策、今後の課題は	
広告珍談	18
広告はたのしい <sup>25</sup> なめてはダメ!	
NNAアジア経済レポート	19

### 事務局だより

#### ◇10月定例講演会

2016年10月20日(木)

午後1時30分～3時

ホテル横浜キャメロットジャ  
パン5階「ジュビリーⅢ」

講師は日本大学法学部教授の  
岩井奉信氏

演題は「現代日本政治と政局  
のゆくえ」

#### ◇11月定例講演会

2016年11月9日(水)

午後1時30分～3時

横浜ベイシェラトンホテル&  
タワーズ4階「浜風」

講師は日産自動車取締役副会  
長の志賀俊之氏

演題は「逆風下の変革マネー  
ジメント～リーダーの役割」  
(仮題)

◇会員の動き(敬称略)

退会

▽横浜市議員・高橋徳美

# 視点 点描



## 変わるお墓事情 あれこれ

この秋、相模原市営の2霊園で「使用済み返還墓所（永年使用）」の公募が行われた。使った墓地を返すというフレーズにひかれて、取材した。以下は、そのこぼれ話。

お墓というと、子どもころ肝試しをした近所のお寺のイメージしかない。そういう墓を「和型」と呼ぶのだと初めて知った。縦長

の墓石に、多くは「〇〇家の墓」と刻まれる。対する言葉は「洋型」。こぢんまりとした墓石には「愛」や「夢」など、故人の好きな言葉が刻まれていることも。

こういった家族（や個人）の墓は「一般」墓所と称され、相模原では、地面が土のままの「普通」タイプと、芝を植えた「芝生」タイプに分けている。それぞれ設置

できる墓石のサイズ上限があるため、「普通」では和型が、「芝生」では洋型が主流になる。今回公募対象の返還墓所は、この普通・芝生タイプで、計65区画。

当然ながら公募は、数がたまたまないとできず、不定期になる。1990年供用開始の「峰山霊園」（南区）は初めて、それよりも古い「柴胡が原霊園」（中央区、50年供用開始）でも12年ぶり。広報紙4月15日号で予告を、8月15日号で募集要項を載せたのは「お盆休みに、親族で話し合ってもらおう」意図もあるようだ。へえー。

これらとは異なるタイプの墓も登場している。今世紀に入って相模原市は「期限付き」と「合葬式」を造った。前者は、利用期間 $\square$ 年で「墓石付芝生墓所」と呼ばれる。更新はできるし永年使用の合葬式に移ることも可能だが、使用者が変わる前提なので、墓石は共通デ

ザイン（市の花アジサイが彫られている）で備え付けだ。

実際に霊園に行ってみた。柴胡が原霊園は昔ながらの墓地で、区画面積は3・1平方 $\text{m}$ から最大19・8平方 $\text{m}$ まで。今回の返還墓所公募にあたって、いくつかの広めの区画は分割 $\text{し}$ たという。

一方の峰山は整然とした公園墓地。当初は1区画4平方 $\text{m}$ だったが、2004年供用分から2・5平方 $\text{m}$ に。今後整備する一般墓所は1・5平方 $\text{m}$ と、さらにコンパクトになる。市によれば、民間墓所は1平方 $\text{m}$ 未満のものも珍しくはないという。3年前に行った市民アンケートで「希望する墓の広さ」は、多い順に「お骨が納まればよい」32%、「1・5平方 $\text{m}$ 」18%だった。変化していくお墓事情。これからも目が離せない。

（神奈川新聞社相模原・県央総局長

青木 幸恵

# なめてはダメ!

小さいころ、エンピツをなめて、たびたびしかられた。

なんでなめるの! 濃く書けるからと返事、ほんとうにそうだったのかな。

「鉛筆柏楨」と書くと、むつかしいが「エンピツの木」のこと。高さ30メートルほどになり、均一の材質で削りやすく、赤褐色で香りがよく、もつとも良質の鉛筆材という。その用材の中心に入っているエンピツのシンについて、この広告はしっかり教えてくれる。

「鉛筆はいつごろ、できましたか」と問いかけて、「鉛筆のように絵や文字を書くための器具は、ギリシャ・ローマの古い昔からありました。しかし現在われわれが使っているような黒鉛(これは鉛とは関係がない炭素です)を主原料とするのは約四百年の昔です。十六世紀の中ごろイギリスで黒鉛が発見され、これを薄くけずったり、木のさやにはめたりして用いました。それでも、その当時はたいへんべんりだといわれて、貴重品になっていました。イラストは、当時の鉛筆だろうか。「その後、黒鉛の粉に、ほかのものをまぜて固めることを思いつ

き、ついに十八世紀の末、フランスのコンテが黒鉛と粘土をまぜて固め、棒状に切ったものを発明しました。正確にいえばこれが鉛筆の元祖でしょう」と。それからどうしたの。

「日本では明治二十年、真崎仁六という人が、苦心の末に作りだしました。これが真崎大和鉛筆株式会社初めで、六十四年間、三菱鉛筆として、日本の鉛筆をリードして来ました」。広告主はその「みつびしえんぴつ」とあるのは、

き、ついに十八世紀の末、フランスのコンテが黒鉛と粘土をまぜて固め、棒状に切ったものを発明しました。正確にいえばこれが鉛筆の元祖でしょう」と。それからどうしたの。

「日本では明治二十年、真崎仁六という人が、苦心の末に作りだしました。これが真崎大和鉛筆株式会社初めで、六十四年間、三菱鉛筆として、日本の鉛筆をリードして来ました」。広告主はその「みつびしえんぴつ」とあるのは、



三菱グループのひとつだろうか。ボクはいつも、HBを使ってる。Hはhardで固いこと、2H3Hとだんだん硬くなり、5H6Hともなると精密な製図用だとか。柔らかいのはblackのB、だんだん増えて4Bとか6Bになると、デッサンなどお絵描きに使う。Fもある。HBとHの中間でfirm。しっかりしたとか、力強いの意味という。

鉛筆の元祖をつくったコンテは、フランスの科学者で画家。その名は白や黒や茶色のデッサンに使う、棒状の絵具のことになった。うまく描ければすばらしいが、ちよつと直すとなくなると消しにくくてやっかいなコンテだ。それにしてもなぜ、鉛筆は六角形なのだろう。色鉛筆は円筒形なのに。もつとも四角形では指になじまない。八角形では、円筒と同じになるからか。

（美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住）